潜在性乳がんの診断と治療

　潜在性乳がんは臨床的に乳房に異常を認めず、腋窩リンパ節の腫大･硬結を認めるなど、リンパ節転移が先行したものを言います。全乳がんの 0.1～0.2%と極めて稀な疾患です。

臨床所見
腋窩リンパ節の腫大、硬結を認めるも、乳房に所見を認めない状態です。

診断
　腋窩リンパ節の生検による組織診にて原発巣の診断をつけることが重要です。
しかし、MRI、CT、FDG-PET 等の検査の進歩によって乳房内に微小ながんの存在部位が確認されることもあります。

治療
　原発部位が確認できた場合は、原発部位のコントロールとして乳房部分切除を施行し、腋窩リンパ節の郭清を行います。原発巣が画像的に確認されない場合は患側乳房の放射線治療が考慮される場合もあります。
　また、リンパ節の組織診断、リンパ節転移個数の結果によって、一般の乳がんに準じて補助療法の組み立てを行っていく必要があります。